

協会ニュース50号発行記念号

ふなばし し こく さい こう りゅう きょう かい はる  
**2012 船橋市国際交流協会 “春のつどい”**



世界の言葉 ベトナム・エチオピア・ラオス・ネパール・フィリピン・チェコの皆さん

SYOGAIKOKUNO HITOBITOTO (諸外国の人々と)

MOTTO FUREAI (もっとふれあい) MOTTO NAKAYOKU (もっと仲良く)!!

あいにくの雨の土曜日3月17日、今年も“春のつどい”が開かれた。会場はアーティストイベント「三百人劇場」で知られる宮本公民館。全国トップレベルの名門市立船橋高校吹奏楽部75名のロサンゼルスファンファーレで開会。会場内は、若いエネルギーの熱気にあふれた。

「春のつどいははじめてです。誰でも参加できて楽しいと思います。日本は情報系が進んでいるので留学しました」。千葉の大学に学ぶ小顔の中国人青年が語ってくれた。

会場には、ホンピノス貝汁、インドカレー、YAKISOBA、YAKITORI、果物、飲み物などが用意され、歓談をもちあげた。

来年はぜひ、あなたも参加してみたいはいかがですか。

広報委員 渡部



市船吹奏楽部



フィリピンバンド



来場者全員によるジェンカ



# 世界の国から、こんにちは

## 新国際理解セミナー開催にあたって



協会は今年創立25周年を迎えます。この機に「今まで以上に協会を市民にアピール出来る格調高い事業」はないものかと、考えておりました。この様な条件の下で検討中、現在世界196ヶ国の内、

179の国が東京に大使館を設置して、その総ての公館が「自分の国を駐在先の国民に知って貰う広報活動は、外交上の重要な職務である」と理解しております。ならば、各国の大使館に当地にお出向き願ひ、船橋市民に直接語って戴けたらと。外務省に相談した処「それは結構な話だ。後援もしますよ。」と快諾され、協会と船橋市が共催する事で決着しました。以上の経過からこれまでの「理解セミナー」を衣替えて「世界の国から、こんにちは」と題して、3月8日「きららホール」で「インド国首席公使」をお迎えして開催したところ大変な好評を得ました。今後年3～4回の割合で開催となりました。このイベントには皆さんと一緒に準備し開催したく、1人でも多くの参加を願っています。どうぞご遠慮なく事務局までお申出下さい。

友の輪を広げ、一緒に楽しくやりましょう。

<世界が明るくなりますよ！>

会長 田村 泰一

## 日印国交樹立60周年をむかえて



講演は午後7時「きららホール」で開催され、始めに会長から今回インドが選ばれた経緯が話された後、ビデオで過去から現在までのインドの国紹介がありました。

その後インド大使館首席公使サンジャイ・パンダさんがインドの歴史を振り返りながら、現在から未来への発展の予測について講演をしました。現在世界第2位の人口、世界第4位の経済大国のインドは、英語を話す専門知識を持った労働人口が今後ますます増え続け、世界で活躍する人材の宝庫となることを熱く語りました。

今回の募集を市民広報に載せたのが3月1日でしたが、この短い期間に約140名の参加者があり、サンジャイ・パンダさんの話を熱心に聞き入っていました。日本とインドが経済だけでなく、民間の交流もますます活発になっていくことを期待した約2時間の講演でした。

広報委員 塚原

## 国際理解セミナー 講師(協会会員) 福地 洋一郎氏

### 「民間ボランティア日本語教師の見た

#### 天山のちいさな親日国」



「民間ボランティア日本語教師の見た天山のちいさな親日国」というテーマの下に、2回にわたってセミナーが開かれた。

第1回は昨年12月8日勤労市民センターに於いて開催された。講師福地洋一郎氏は、1999年より2005年まで日本語教師としてキルギスに滞在され、帰国後は日本とキルギス間の友好のために活動されている。当日は悪天候にも関わらず約50名の参加者があった。

講演内容は「大国のエゴに翻弄される貧しい国の市民たち」ということで、アラブ、中央アジア、旧ソ連圏の国々の変動、興亡の過程、特に民主化への道のりを映像を交えて豊富な知識を披露された。

第2回は1月18日中央公民館で開催された。前回の

中東アジアの内ではイランの利権をめぐる民族紛争、イラクの宗派対立の話から始まり、キルギスにおける二度の革命と騒乱の悲劇的実話が話された。

次に「シベリア抑留者の“戦後”はまだ終わっていない」ということで、終戦によりソ連軍の捕虜となり、シベリアに抑留された一兵士がキルギスのタムガ村の収容所に収容された実話も語られた。彼は昭和21年5月から2年間強制労働に就かされた後、昭和23年7月に舞鶴に帰国された。キルギスに滞在していた講師が、滞在先で知り得た日本人の足跡を綴る物語であった。

広報委員 中川



キルギスの日本語教室の生徒と共に



## アマゾンを守る植林運動に参加



「平成21年度国際理解セミナー」で長坂優氏と出会ったのが縁で、「第19回アマゾン植林ツアーの旅」に平成24年1月22日から11日間、12名のメンバーで参加した。

ブラジル・アマゾン流域の開発によって、緑が減少している。森林破壊がこれ以上進めば、人類はもちろん、地球上の生き物すべてに危機が及ぶことを「船橋市国際交流協会主催 平成21年度国際理解セミナー」の講演で訴えた。

今もアマゾンの生活者である長坂氏は、大規模農場を営む開拓移民1世である。氏は今から45年前に、ブラジルの大自然のど真ん中に飛び込んで、アマゾンの開拓に動んできた。そこで見えてきた地球環境問題、遠く離れた現在の日本が抱える様々な問題について語った。

その後、「自然の恩恵を受けてきた農民が自然の破壊者になった」との思いから、日系開拓者を中心に「アマゾン森林保護植林協会」を設立し、以来精力的にアマゾンでの植林活動を続けている。

さらには植林活動を通じての自然環境保全の重要性などについて「地球人一人一本植林運動に協力してください」と熱っぽく語った。

片道約30時間の飛行機の長旅は疲れた。地球の反対側に辿り着いたブラジルの気候は暑く、ホテルさえ満足な物ではなかった。また日本と比べて治安は良いとは言えなかった。

約3年前に船橋市国際交流協会が植林会員として植えた国際交流記念樹は、たくましく直径約20cm、高さ約5mにも成長していた。今回は常夏アマゾンの新植林地に新たにチークの苗木2本を植えた。将来のアマゾン流域に新たな緑が生い茂ることを期待してその場を後にした。

広報委員 中谷

## オーデンセの環境にやさしい生活

12月13日に市役所705会議室にて、当市姉妹都市オーデンセ市環境政策局プロジェクトマネージャー、トープンクラウセン氏の環境講座が開かれた。彼は環境に関する啓発講座の講師も務め、切り紙作家でもあるそうだ。

オーデンセ市では森を増やし、殺虫剤を使わず、ゴミ捨て場だった島を何年もかけて紙や缶等の仕分けをし、地域にやさしいレクリエーションの場を作り活用しているそうだ。また食も肉より野菜、旬の物を食し、交通量が減った大きな車道を緑地に作り直し、建物を低くし、緑地を多くしているという。また多くの自転車専用レーンを設け、国家をあげてサイクリング都市にして、健康促

進を促し、交通事故も減り、医療費も減少し、良いことづくめで、羨ましいかぎりであった。

市民との対話にはインターネットや公園などのパネルに意見を書いてもらい、行政がそれに素早く対処するという方法がとられ、とてもいいアイデアだと思った。船橋の環境対策紹介でエコおもちゃや、傘布のエコバックなどの紹介もあった。また意見交換も活発に行われた。船橋とは国・個人のレベルが違うので比べられないが、私達も自覚を持って生活しなくてはならないのではないかと。内容が良くて、もっと沢山の人の参加してもらえたら良いなと思った。

姉妹都市委員 鈴木 千恵子

## 書道体験とカード作りに挑戦!



12月2日中央公民館にて、恒例の書道体験と今年はクリスマスカードも兼ねたカード作りが行われました。

外国の方も含め総勢19名で、西口さんの指導のもと、先ず来年の干支の「龍」の文字をハガキやカード用に練習し、ゴム印等でそれぞれデザインしました。

上手に書かなくても良いので、架空の動物「龍」が天に昇るような姿をイメージして遊び心で個性を出すようにとの指導でしたが、久しぶりに筆を持つのでなかなか思うように書けません。それでも、皆さん楽しそうに、一生懸命書いていました。

途中のティータイムにはサンタ姿の会員の青田さんのマジックも披露され、お茶やお菓子をいただきながら楽

しい懇親のひと時を過ごしました。

その後、大きな紙(2分の1半切用紙)に大筆で再び大きな「龍」の文字を書きました。

大筆では上手く書けない思いながらも、それぞれ自分の「龍」の字の出来栄に満足(?)し、写真に収めました。

特に外国人は慣れない筆を上手に使って、まさに勇ましい龍が天に昇るような勢いのある字をそれぞれの個性で楽しそうに書き、私たち日本人を驚かせました。

来年もまたと期待しながら楽しく終わりました。

2012年という新年には今日書いた「龍」が、家のどこかに飾られていたことでしょう。



交流委員 下條 寿美子



# 「船橋市国際交流ニュース」発行50号への歩み



創刊号(1991.3.25)



第2号(1992.2.1)



第3号(1992.12.15)



第4号(1993.3.31)



第5号(1993.12.24)



第6号(1995.1.31)



第7号(1996.1.15)



第8号(1997.1.1)



第9号(1998.1.15)



第10号(1998.12.21)



第11号(1999.3.31)



第12号(1999.7.23)



第13号(1999.9.24)



第14号(1999.12.24)



第15号(2000.6.26)



第16号(2000.11.28)



第17号(2001.3.27)



第18号(2001.6.27)



第19号(2001.11.28)



第20号(2002.3.26)



第21号(2002.6.26)



第22号(2002.11.26)



第23号(2003.3.24)



第24号(2003.7.1)



第25号(2003.12.3)



ホームページ (www.fira.jp) から交流協会ニュースを開けてご覧いただけます



第26号(2004.3.23)



第27号(2004.7.15)



第28号(2004.11.5)



第29号(2005.3.23)



第30号(2005.6.30)



第31号(2005.10.21)



第32号(2006.3.24)



第33号(2006.8.1)



第34号(2006.11.24)



第35号(2007.3.23)



第36号(2007.7.19)



第37号(2007.11.29)



第38号(2008.3.24)



第39号(2008.6.24)



第40号(2008.11.26)



第41号(2009.3.24)



第42号(2009.6.24)



第43号(2009.12.15)



第44号(2010.3.29)



第45号(2010.7.30)



第46号(2010.11.30)



第47号(2011.3.24)



第48号(2011.6.28)



第49号(2011.11.30)



第50号(2012.3.28)



# 国際交流協会ニュースの経過

号数	発行日	サイズ	頁数	色彩	1頁目の見出し	広報委員長
創刊号	1991. 3. 25	B4	4	青・黒	国際交流協会・国際都市・船橋	事務局
第2号	1992. 2. 1	B5	6	青・黒	デンマークフェアの開催決まる	事務局
第3号	1992. 12. 15	B5	4	青・黒	船橋市・オーデンセ市姉妹都市提携三周年記念	事務局
第4号	1993. 3. 31	B5	4	青・黒	第5回国際交流のつどい	事務局
第5号	1993. 12. 24	B5	4	青・黒	船橋市・西安市友好五周年記念	事務局
第6号	1995. 1. 31	B5	4	青・黒	船橋市・西安市が友好都市を締結	事務局
第7号	1996. 1. 15	B5	4	青・黒	友好都市西安市と小・中・高校の友好学校調印	事務局
第8号	1997. 1. 1	A4	4	青・黒	友好都市西安市で城壁国際マラソン大会開催	事務局
第9号	1998. 1. 15	A4	4	青・黒	船橋市国際交流協会設立十周年記念事業開催される	事務局
第10号	1998. 12. 21	A4	4	青・黒	船橋市国際交流協会の総会、平成10年5月28日に開催	野上 綾子
第11号	1999. 3. 31	A4	4	青・黒	船橋市国際親善ボランティアの活躍	野上 綾子
第12号	1999. 7. 23	A4	4	青・黒	船橋市国際交流協会の総会、平成11年5月27日に開催	野上 綾子
第13号	1999. 9. 24	A4	4	青・黒	船橋市・オーデンセ市姉妹都市提携10周年記念事業特集	野上 綾子
第14号	1999. 12. 24	A4	4	青・黒	船橋市・西安市友好都市提携5周年を記念する行事、両市で行われる	野上 綾子
第15号	2000. 6. 26	A4	4	青・黒	第12回国際交流のつどい、華やかに開催	野上 綾子
第16号	2000. 11. 28	A4	8	青・黒	特集 忘れられない夏！若人の友情は海を越えて	野上 綾子
第17号	2001. 3. 27	A4	4	青・黒	ようこそ”千人の音楽祭2001”へ！	野上 綾子
第18号	2001. 6. 27	A4	4	青・黒	10月 米国ヘイワード市に集まりましょう！！	野上 綾子
第19号	2001. 11. 28	A4	4	青・黒	ヘイワード市との15周年記念行事が中止に！！	野上 綾子
第20号	2002. 3. 26	A4	4	青・黒	平成14年は協会設立15周年	野上 綾子
第21号	2002. 6. 26	A4	4	青・黒	国際理解公開セミナー エチオピアの夕べ	野上 綾子
第22号	2002. 11. 26	A4	6	青・黒	国際交流のつどい2002	野上 綾子
第23号	2003. 3. 24	A4	4	青・黒	ふなばし千人の音楽祭2003	野上 綾子
第24号	2003. 7. 1	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No1 インド	野上 綾子
第25号	2003. 12. 3	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No2 アイスランド	野上 綾子
第26号	2004. 3. 23	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No3 カンボジア	野上 綾子
第27号	2004. 7. 15	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No4 モンゴル	野上 綾子
第28号	2004. 11. 5	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No5 スリランカ	野上 綾子
第29号	2005. 3. 23	A4	8	青・黒	姉妹・友好4都市が音楽で交流	野上 綾子
第30号	2005. 6. 30	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No6 デンマーク王国	野上 綾子
第31号	2005. 10. 21	A4	6	青・黒	目で見る世界の国 No7 マルタ共和国	野上 綾子
第32号	2006. 3. 24	A4	6	青・黒	目で見る世界の国 No8 メキシコ合衆国	野上 綾子
第33号	2006. 8. 1	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No9 パキスタン・イスラム共和国	野上 綾子
第34号	2006. 11. 24	A4	6	青・黒	目で見る世界の国 No10 フィリピン共和国	野上 綾子
第35号	2007. 3. 23	A4	4	青・黒	目で見る世界の国 No11 バングラデシュ人民共和国	野上 綾子
第36号	2007. 7. 19	A4	4	青・黒・カラー	目で見る世界の国 No12 ミャンマー連邦	小菅 智子
第37号	2007. 11. 29	A4	8	青・黒・カラー	今年は協会設立20周年です	小菅 智子
第38号	2008. 3. 24	A4	4	青・黒・カラー	2008年ニューイヤーパーティ フィリピン特集	小菅 智子
第39号	2008. 6. 24	A4	4	青・黒・カラー	文化交流イベント 「世界の遊び」	佐野 正人
第40号	2008. 11. 26	A4	8	青・黒・カラー	国際交流のつどい 2008	佐野 正人
第41号	2009. 3. 24	A4	4	青・黒・カラー	ニューイヤーパーティー 2009	佐野 正人
第42号	2009. 6. 24	A4	4	青・黒・カラー	谷津バラ園と干潟を国際交流ウォーキング	宮 慶助
第43号	2009. 12. 15	A4	8	青・黒・カラー	国際交流のつどい 2009 in 西安	宮 慶助
第44号	2010. 3. 29	A4	4	青・黒・カラー	ニューイヤーパーティー2010 (アジアの国々から“こんにちは”)	宮 慶助
第45号	2010. 7. 30	A4	4	青・黒・カラー	ペーパードール作り	塚原 美都恵
第46号	2010. 11. 30	A4	6	青・黒・カラー	水元公園と葛飾染又へ	塚原 美都恵
第47号	2011. 3. 24	A4	6	青・黒・カラー	2011 船橋市国際交流協会 “春のつどい”	塚原 美都恵
第48号	2011. 6. 28	A4	4	青・黒・カラー	船橋市国際交流協会 平成23年度総会	塚原 美都恵
第49号	2011. 11. 30	A4	8	青・黒・カラー	船橋市・ヘイワード市姉妹都市提携25周年市民親善使節団帰国報告	塚原 美都恵
第50号	2012. 3. 28	A4	8	カラー	記念号 2012船橋市国際交流協会 “春のつどい”	塚原 美都恵

## シンボルマークの意味

91・3・25創刊号より  
 公募したシンボルマークが  
 この程決定しました。全国か  
 ら95点の応募があり、審査の  
 結果、北川康広さん(大阪市、  
 39歳)の作品が最優秀作品に  
 選ばれました。また、佳作に  
 は中村次雄さん(船橋市)、遠  
 藤克也さん(山形市)、小池恵  
 雄さん(浜松市)、秋田芳廣さ  
 ん(名古屋)、北川治さん(岡  
 崎市)の作品が選ばれました。  
 決定したシンボルマークは、  
 船橋の「F」をモチーフに「虹と新芽」を  
 描いた北川さんの作品に、中村さ  
 んの作品からFIRAの文字  
 を取り入れたものです。今後  
 は、様々な場面でこのマーク  
 を使ってまいります。三本の  
 ラインは外側から青「真心」、  
 黄色「活力」、ピンク「夢」の  
 三色の虹で、内側の緑は「新  
 しい出会い」の新芽を表して  
 います。





# 外国人相談窓口研修会

今回は「法テラス」から講師をまねいて研修をしました。その内容を以下のとおり報告致します。

日時：平成23年11月8日 13:30～17:00

会場：船橋市役所903会議室

講師：日本司法支援センター

(法テラス)

千葉地方事務所

遠藤弁護士

鈴木事業課課長代行



遠藤弁護士

## ①「法テラス」について

法テラスとは平成18年国が設置した機関で、県内には千葉市と松戸市に事務所があり、資力および保有資産が一定額以下であるとの条件で日本人のみならず、日本語を話せない外国人の法律相談に無料で通訳をつけるサービスも実施しています。言葉のハードルに限らず、物事のとらえ方や考え方の面でも相違があると思われ、国際交流協会との連携を取り合いながら、法的トラブル解決の道筋を提供します。

## ②「外国人相談の留意点について」

講師は、相談担当者の心構えとして、援助者の基本的な態度を示したバイステックの7原則に基づき、依頼人の個別化・感情表現を大切に、相談担当者として秘密を保持し信頼感の醸成を図ることな

どについて話がありました。また、外国人相談窓口委員は、依頼人の自己決定を促し、尊重して、自分の概念などを一切はさまず、依頼人に対し明確、中立、公正な対応ができるようにとのことでした。講師は、講義中、ジェスチャー、会話のやりとりなど実際の対応事例を交えた話で、非常に理解しやすいものでした。

法テラスの相談案件としては民事関連では金銭（借金）および離婚がその大半であるとして離婚類型、親権・財産分与など離婚における問題点などの説明もありました。

外国人向けサービス、利用の流れ、相談サービス全般の説明もありました。

この研修を機会に、その後外国人相談窓口委員の中国語・英語通訳者が法テラス千葉地方事務所に通訳人名簿登録を済ませ、千葉事務所で行われる講習会、関東弁護士連合会による懇談会などへの参加も行うなど、非常に有意義な研修でした。

外国人相談窓口委員 狐塚 秀樹



## お知らせ

### 平成24年度総会を開催します

今年度の事業報告及び新年度の事業計画等を審議、決定するため下記のとおり総会を開催します。なお、総会に付議する議案は、後日会員の皆さんに送付いたします。

日時 平成24年5月18日（金）午後3時から

会場 船橋市役所11階大会議室（船橋市湊町2-10-25）

### 平成24年度の会費納入のお願い

協会の会費は、年度会費です。毎年4月から翌年3月までの1年間の会費です。

同封の「払込取扱票」でお近くのゆうちょ銀行からお振り込みいただくか、下記、千葉銀行へお振り込みください。

<年会費> 個人 一口 1,000円

法人・団体 一口 10,000円

※二口以上の場合はお手数ですが通信欄に口数記入のご協力をお願いします。

<振込先> ・ゆうちょ銀行 口座番号記号 00170-7-57755

加入者名 船橋市国際交流協会

・千葉銀行船橋市役所出張所 口座番号 普通 3018415

口座名義人 船橋市国際交流協会 会長 田村 泰一

## あとがき

東日本大震災を機に「絆」と言う言葉に多く出会います。人と係る活動は全て絆を伴います。強い絆は強い味方であると同時に、新しい事に移ろうとすると大きな抵抗を示します。現代では「緩い絆」も注目されています。緩い程多くの絆を持てます。多様な事態への対応の必要から、どうしても必要な「強い絆」を残しながら、出来るだけ多くの「緩い絆」を持つ必要がある訳です。このバランスが健全な地域活性化の鍵と言われています。

国際交流協会ニュースも、船橋市と異なる文化社会からの人々との間の交流の様子をお届けし、望ましい絆ネットワークの構築に少しでもお役に立てればと思っています。

(T.H.)



# 日本語学習支援者養成講座の“まちあるき”に同行して

船橋市で1992年から開催している日本語教室のボランティアを養成する講座が開催されました。10月3日～11月28日の間に週2回のペースで全14回。座学のはずの講座の中に学習者と出かける機会があると聞き、同行したので紹介します。

いろいろな国から船橋に来た人たちは、市役所の国際交流室内にある当協会事務局や、知り合いから情報を得て、市内7カ所で開催されている日本語教室の門をたたきます。そんな人たちと「市民との共生、地域参加」の基になる考え方を伝えたり、日本語をいっしょに学ぼうというのが、日本語学習支援ボランティアの活動目的です。



日本語の教科書による指導もありますが、生活する上での一般的な知識を教えたり、地域になじんでもらうことも大切な活動になっています。出身国にとらわれず、日本語で日本語を伝える技術を習得するだけではなく、多文化共

生の考え方を学ぶのがこの養成講座です。

ボランティア自身が船橋をよく知る事も大事な要素です。私が取材に同行したのは、市内を巡り、自分で前もって調べた名所や神社、仏閣について、日本語を学習中の外国人といっしょに歩いて、その由緒を分かりやすい日本語で説明する屋外の実習授業でした。34名の講座受講生はいずれボランティアとして、どこかの日本語教室の一員となって、自分自身で外国人に船橋のまちを案内しながら、日本語や日本の習慣を教える日も近いことでしょう。詳しい内容は協会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

\*当協会では随時会員を募集しています。



広報委員 田嶋

## 日本語教室紹介シリーズ

### No1. 葛飾公民館(金曜日 19:00～21:00)

今号から日本語教室が開催されている市内7カ所の公民館をシリーズで紹介します。



夜間の日本語教室で中国服を着て教える伊藤さん

葛飾公民館を訪問した1月20日(金)は、小雪混じりの寒い雨降りであった。そのためか学習者の出席率は半分位だろうと、対応の鎌形さんは過去の様子を語ってくれた。

1月現在では25名の学習者と、15名の支援者が毎週1回金曜日、19時から2時間の授業を行っている。過去最高35名位いた学習者は、昨年3月の東日本大震災が要因で帰国したが、まだ回復していないとの話であった。

1月時点の学習者の出身国は10ヶ国に及び、中国人が半分で、3分の2が女性である。

支援者は全員が交流協会の日本語学習支援者養成講座を受けたボランティアで、外国での生活経験者や定年退職者が多い。

鎌形さんによれば、『どこの公民館でも共通する問題は、学習者の定着率が低い』そうだ。授業では日本語だけでなく、日本の文化・風習も教えている。東日本大震災の後、過去の帰国学習者から、お見舞いの連絡が沢山あり、育まれた「絆」を皆で喜び合った。

右の写真は平成23年12月開催の葛飾公民館での日本語教室「お楽しみ会」の演技である。両親が学習者であって、同行したバングラデシュ(左)とチリ(右)の民族舞踊を踊る小学生の子供達は、日本での舞台を楽しんでいた。



小学生とは思えない見事な民族踊り

広報委員 中谷